

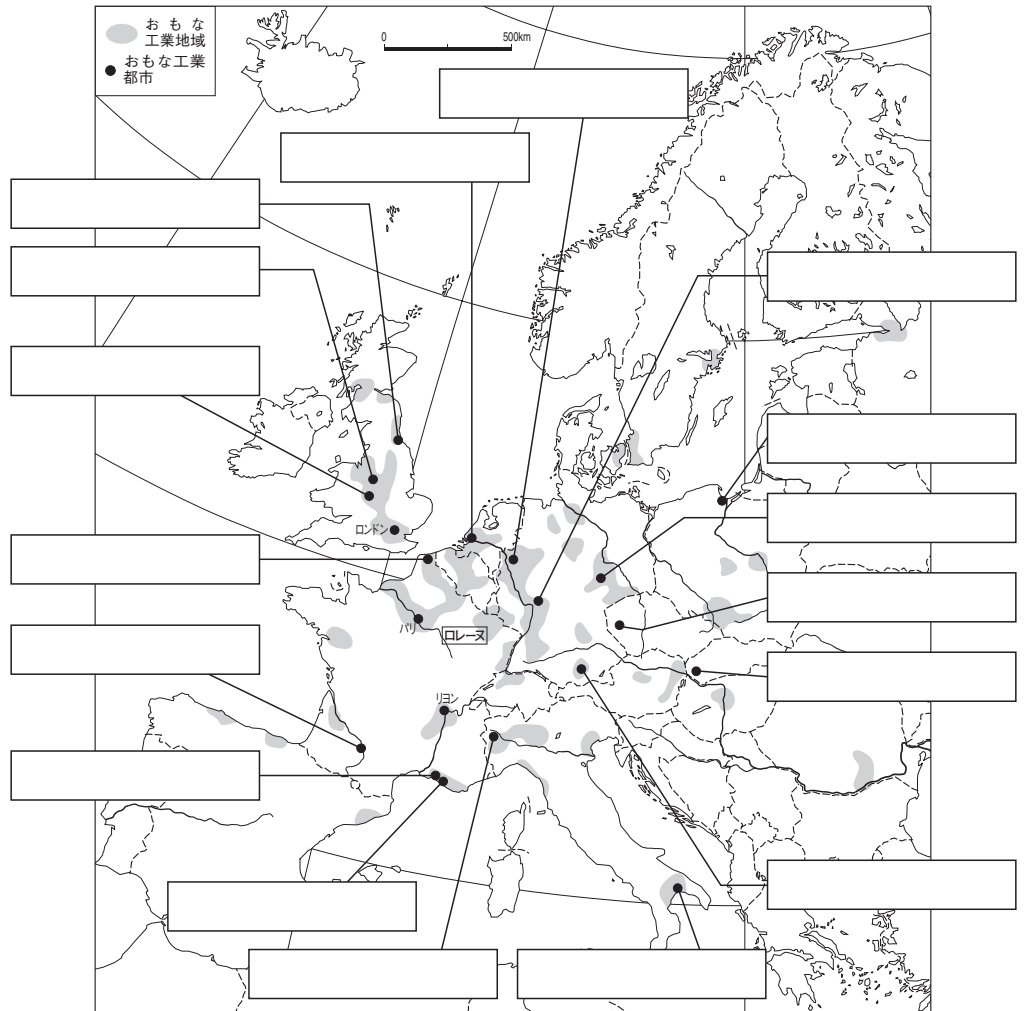
工業都市（ヨーロッパ、ロシア）

参考資料：『新詳地理B 初訂版』 p.92-99、
『新詳高等地図 初訂版』 p.39-58、
『新詳資料 地理の研究』 p.107-117、p.131-144、
154-157

○ I、II にあげた工業都市について、太字示した都市について地図帳を見ながら、白地図に地名を記入しよう。太字でない地名については、地図帳で確認しておこう。

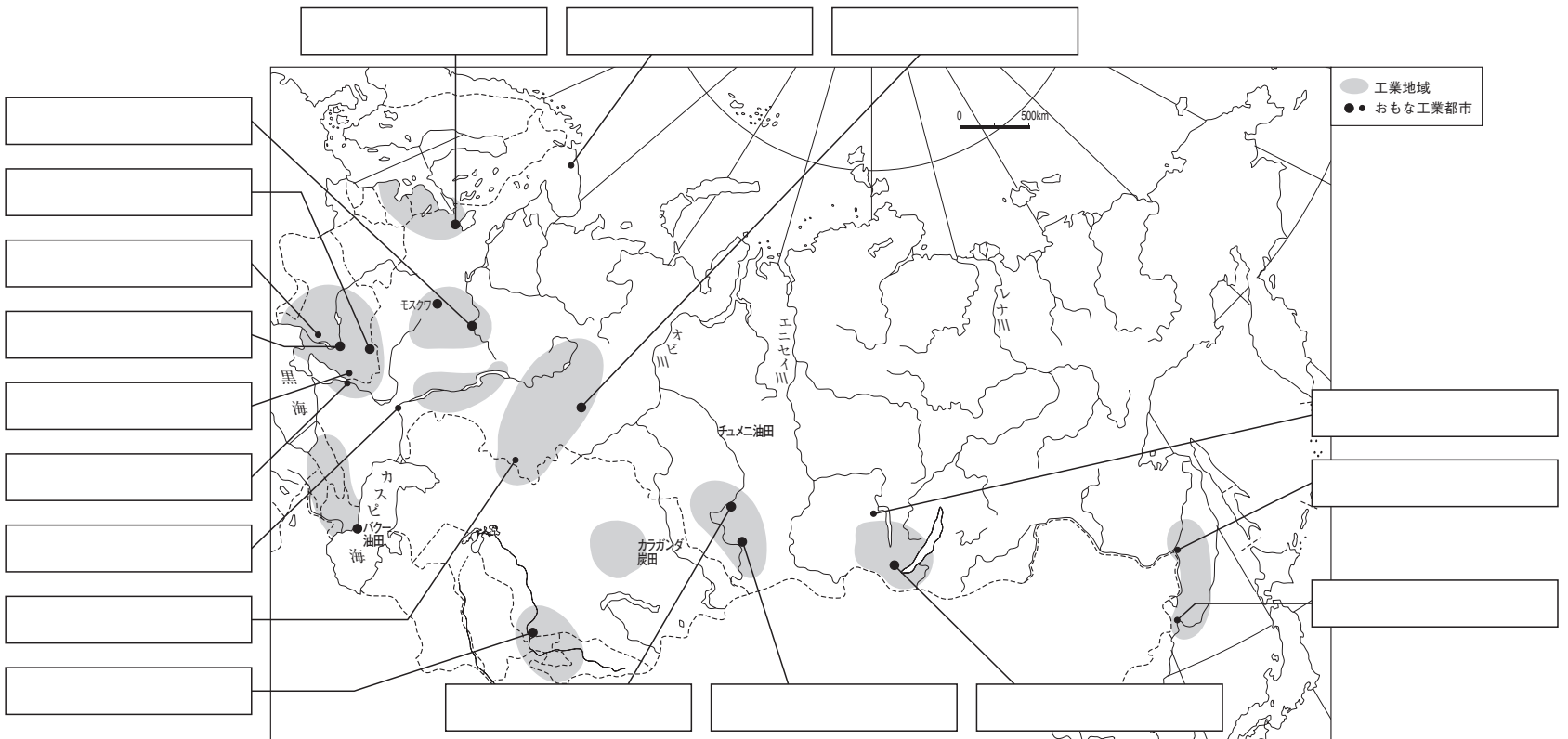
I ヨーロッパの工業都市

①イギリス	バーミンガム マンチェスター リーズ グラスゴー エディンバラ ロンドン ミドルズブラ
②ドイツ	デュースブルク エッセン ドルトムント フランクフルト マインツ シュツットガルト ザールブリュッケン ライプツィヒ ミュンヘン
③フランス	ダンケルク ナンシー メス マルセイユ フォス トゥールーズ グルノーブル パリ リヨン
④イタリア	ミラノ トリノ ジェノヴァ ヴェネツィア タラント
⑤ベネルクス3国	■ベルギー リエージュ ブリュッセル ■オランダ ロッテルダム
⑥スイス	バーゼル ビール
⑦スウェーデン	キルナ スンツヴァル イェーテボリ
⑧スペイン	ビルバオ マドリード
⑨東ヨーロッパ	■チェコ プルゼニ ■スロバキア ブラチスラバ ■ポーランド ワルシャワ グダンスク ■ルーマニア プロエシュティ



II ロシアとその周辺の工業都市

①ロシア連邦	サンクトペテルブルク ノヴゴロド ムルマンスク ニジニーノヴゴロド ヴォルゴグラード ロストフ マグニトゴルスク エカテリンブルク ノヴォシビルスク ノヴォクズネツク ケメロヴォ イルクーツク ブラーツク ハバロフスク ウラジオストク
②ウクライナ	ドニエプロペトロフスク ドニエツク クリヴォイログ ハリコフ
③アゼルバイジャン	バクー (油田)
④ウズベキスタン	タシケント
⑤カザフスタン	カラガンダ (炭田) テミルタウ



工業都市（ヨーロッパ、ロシア） 解説・解答

参考資料：『新詳地理B 初訂版』p.92-99、『新詳高等地図 初訂版』p.39-58、
『新詳 資料地理の研究』p.107-117、131-144、154-157

I ヨーロッパの工業の変化

ヨーロッパでは第二次世界大戦後、高度経済成長を支えた北フランス・ルール・ロレーヌは衰退し、消費地や臨海部に工業の中心が移動している。イギリス南部からドイツ西部、フランス東部、北イタリアにかけて先端産業と交通網の発達で経済発展が著しく、その形から「青いバナナ」とよばれる。

① イギリス

産業革命の発祥国。首都ロンドンは大消費地で生活用品などの生産地。バーミンガムは鉄鉱石産地でブラックカントリー（黒郷）といわれた鉄鋼業地域。かつては、ランカシャー地方は綿工業地域でマンチェスターが工業都市、リヴァプールが原料の輸入港であった。ヨークシャー地方は毛織物業地域で、リーズなどが工業の中心であった。スコットランドにあるグラスゴー、エディンバラでは人件費が安価などで外国企業が進出して先端産業である電子工業が盛ん。

② ドイツ

ヨーロッパ最大の工業地域を形成。ルール地方にはルール炭田があり、ルール川の水運も利用できるため、重化学工業が発達。エッセン、ドルトムントは鉄鋼・化学工業、デュッセルドルフは金属・化学工業、ゾーリンゲンは刃物の生産地。ライン川の中流にあるフランクフルト、マインツは自動車・化学工業、シュツットガルトは自動車とエレクトロニク

ス産業。ザール地方のザールブリュッケンはフランスのロレーヌ鉄山と結びついて発達した鉄鋼都市。ザクセン地方ではライプツィヒの機械・印刷工業、ドレスデンでは機械工業。

③ フランス

パリ都市圏では日用品工業や自動車工業（シトロエン社）・航空機産業。北フランスでは炭田と石油の輸入でダンケルクの鉄鋼・石油化学工業。ローヌ川沿いのリヨンは絹織物、地中海沿岸のマルセイユ、フォスは西アジアや北アフリカからの石油を利用した港湾立地型の石油化学工業。トゥールーズは航空機産業（エアバス社）、グルノーブルでは近くのボーキサイト産地と豊富な電力でアルミニウム工業、ボルドーはブドウ産地でワイン醸造業、また、港湾があり石油化学工業。

④ イタリア

ミラノ、トリノ、ジェノヴァを結ぶ工業の三角地帯が中心で、アルプスの水力とポー川周辺の天然ガスで発達した。北東部から中部で皮革・服飾業（ミラノは絹織物・靴・バッグ・香水）。トリノは自動車・航空機・エレクトロニクス産業、ジェノヴァは鉄鋼・造船業、ヴェネツィアは化学・アルミニウム工業、南部のタラントは鉄鋼・石油化学工業。

⑤ ベネルクス3国

ベルギーでは北西部のリエージュなどは鉄鋼・化学工業。首都ブリュッセルは繊維・金属工業、フランドル地方のブルッヘ、ヘントは伝統産業の毛織物業（じゅうたん）。オラ

ンダは北海油田の石油を利用し、アムステルダムでは機械・造船・化学工業、ロッテルダム（ユーロポート）は石油化学・造船業。ルクセンブルクは鉄鉱石産地で鉄鋼業が発展。

⑥ スイス

アルプスの水力発電を利用して、バーゼルでは化学工業と絹織物工業。ビール、ヌーシャテルは高級腕時計などの精密機械工業。

⑦ スウェーデン

キルナ、イエリバレは鉄鉱石産地でおもに輸出用。イエーテボリは特殊鋼による自動車（ボルボ社）・造船業。スツヴァルは森林資源を利用した紙・パルプ業、木材加工業。

⑧ スペイン

バスク地方にあるビルバオはかつて鉄山があり鉄鋼業。マドリードは自動車工業。

⑨ 東ヨーロッパの工業

チェコはボヘミア地方の石炭をもとにガラス工芸が発達、プルゼニユにはビール業。スロバキアではブラチスラバの石油化学工業。ポーランドはシロンスク炭田があり、その石炭を利用しヴロツワフでは鉄鋼業、ワルシャワは自動車工業、グダンスクは造船業。ルーマニアのプロエシュティは原油産地で石油化学工業。ハンガリー西部ではボーキサイト産出によるアルミニウム工業。

II ロシアとその周辺の工業の変化

ソ連の時代はコンビナート方式（鉄山と炭田が結びつき工業都市が成立）であったが、1991年のソ連邦解体後は民営化され古い設備が残され、技術革新が遅れている。豊富なエネルギー資源と鉱物資源を利用し、日本や中国など外国資本の導入を進めている。ロシアでは豊かな石油と天然ガスを輸出して、2000年以降は経済成長を続けBRICs（ブラジル・

ロシア・インド・中国の4か国）の一員となっている。

ロシア西部はサンクトペテルブルクの造船・繊維業、ノヴゴロドは化学工業。ムルマンスクは不凍港で木材積出港。モスクワは総合工業、ニジニーノヴゴロドは自動車工業。ヴォルガ・ウラル地方はボルガ川の水運とヴォルガ・ウラル油田から得られる石油からの電力で、ヴォルゴグラードは金属工業。マグニトゴルスク、ニジニータギル、チェリャビンスク、エカテリンブルクでは鉄鋼業、ウファでは石油化学工業。シベリア・極東地方のクズネツク工業地域は、クズネツク炭田、オビ川の水力発電、アバカンの鉄鉱石、チュメニの石油を利用。ノヴォシビルスク、ノヴォグズネツクは鉄鋼業、ケメロヴォは石油化学工業。アンガラ・バイカル工業地域はチェレンホヴォ炭田、エニセイ川・アンガラ川の水力発電を利用して、イルクーツクは機械工業・紙パルプ業、ブラーツクの紙パルプ業、ハバロフスクは製油・木材業、ウラジオストクの造船業・水産加工業。

ウクライナでは、ドネツ炭田、クリヴォイログ鉄山、ドニエプル川の水力発電を利用し、ドニエプロペトロフスク、ドニエツク、クリヴォイログで鉄鋼業、ハリコフでは農業機械工業。

アゼルバイジャンにはバクー油田があり、バクーは石油化学工業。

ウズベキスタンのタシケントは綿工業・農業機械工業。

カザフスタンのカラガンダには炭田があり機械工業。